

「水環境ニュース」では、県内の水環境に関する情報を発信していきます。

「水環境ニュース」



第37回全日本中学生水の作文福島県コンクール入賞者

今号では、

- ・平成27年度水資源功績者「須賀川市に清流を取り戻す市民の会」の活動内容
- ・第37回全日本中学生水の作文福島県コンクール表彰式及び水環境活動発表会
- ・福島県で実施した「冬水田んぼによる地下水かん養モデル事業」及び「地下水資源調査の結果」
- ・環境省で実施した「水辺のレクリエーション被ばく線量試算の結果」

についてお知らせします。

「須賀川に清流を取り戻す市民の会」が 水資源功績者として国土交通大臣より表彰されました

水資源功績者とは、水資源行政の推進に関し、特に顕著な功績のあった個人及び団体を、国土交通大臣が表彰するものです。

平成27年度は「須賀川に清流をとり戻す市民の会」が水資源功績者として表彰されました。

須賀川に清流を取り戻す市民の会 活動内容

地域

市民の会が活動している「下の川」は、「須賀川」が正式な名称であり、須賀川市の名前の由来の一つと云われている川です。

「須賀川」の周辺地域は、上流部には田園地帯、中流から下流にかけては、市街化区域となり、両岸には住宅地が広がっております。また日本都市公園100選に選定されている「翠ヶ丘公園」を貫流し、川沿いは桜の名所ともなっており、市民の散策路や憩いの場となっている他、市の観光名所の一つともなっています。

経緯

都市化の進展や生活の多様化により、生活排水等による水質汚濁が進行し、水質が悪化してしまった「下の川」の環境を改善しようと、川沿いの町内会・地域住民が立ち上がり「須賀川に清流を取り戻す市民の会」が平成8年3月に結成されました。試行錯誤を繰り返しながら、水質浄化や環境美化活動が始まり、広く市民の方々の共感を得、また各種団体からも賛同を得て連携しながら活動を行って参りました。

また、平成12年度からは環境学習を積極的に行っている須賀川市立第三小学校とも協働しながら活動を展開しております（環境学習支援、3回/年）。

功績内容

浄化活動の取組み

- 堰設置による浄化：高低差による水流で、水中に酸素を取り込み水を活性化
- 木炭設置による浄化：木炭をかごに詰めて沈め汚濁の吸着
- 水草植栽による汚濁物質の吸収浄化 ・ 錦鯉稚魚の放流、河川脇の飾花等の景観整備



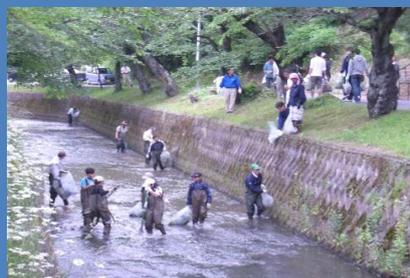
石堰づくり



木炭設置



水草の基盤材（ヤマト）設置



ゴミ拾い、草刈



須賀川三小児童との生き物調査



須賀川三小児童と石堰づくり

全日本中学生水の作文福島県コンクール表彰式 及び水環境活動発表会が開催されました

福島県では、水の日(8月1日)、及び水の週間(8月1日～7日)の行事の一環として、広く水に関する関心を高め、理解を深めることを目的として、本県の次代を担う中学生を対象に水の作文コンクールを実施しています。

第37回目となる今回は、21校から323編の応募があり、入賞作品15編と学校賞5校を決定しました。8月6日(木)に福島市の杉妻会館で表彰式が開催され、入賞者へ表彰状が授与されました。

また、表彰式では優秀賞受賞者による作品発表が行われ、また、水資源功績者として表彰された「須賀川に清流を取り戻す市民の会」さまから、水環境活動について発表していただきました。

入賞作品は福島県土地・水調整課のホームページで読むことができます。



当日出席いただいた入賞者全員に表彰状が授与されました。



入賞者ご本人に作品の発表をしていただきました。



「須賀川に清流を取り戻す市民の会」さまから活動の発表をしていただきました。

水田の冬期湛水により地下水を増やす取り組みを行いました (冬水田んぼによる地下水かん養モデル事業)

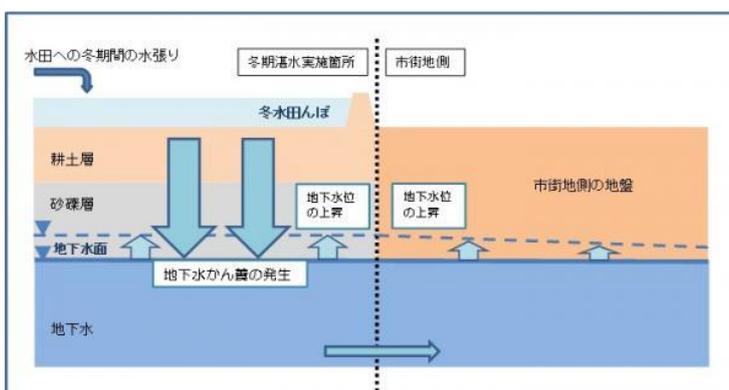
冬の間、田んぼに水を張る「冬水田んぼ」は、生物多様性をはじめ環境保全に関して様々な効果があるとされていますが、その効果の一つとして、水の地下浸透(地下水かん養)が挙げられています。

県では、冬水田んぼによる地下水かん養の効果を検証するため、喜多方市松山町の面積約10^{ha}をモデル地域として、昨冬、冬水田んぼによる地下水かん養の実証事業を行いました。

地下水位は、冬水田んぼ実施水田周辺の井戸4箇所の協力で設置した水位計により観測しました。

検証については福島大学共生システム理工学類(柴崎研究室)により行われ、平成26年11月から平成27年3月にかけて実施した冬水田んぼによって、地下水かん養の効果が表れていることがわかりました。(※水の浸透量の総量は25mプール(8レーン)で約592杯分と推定されます。)

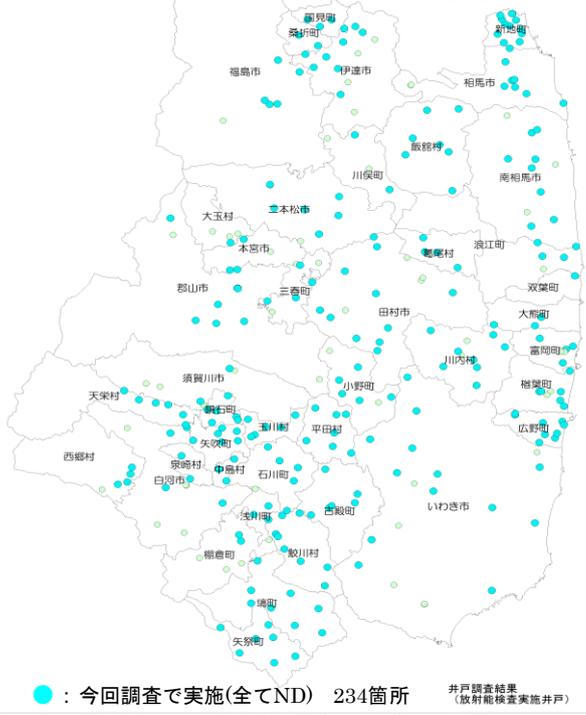
地下水を増やす取り組みとして、今年の冬も事業を継続する予定です。



地下水資源調査を実施しました

放射性物質検査実施井戸位置図

・全てND（不検出：検出限界値1.0Bq/kg未満）



●：今回調査で実施(全てND) 234箇所 井戸調査結果 (放射能検査実施井戸)
●：別事業等でモニタリング済箇所(全てND) 61箇所

福島県中通り・浜通り地域の市町村を対象として、地下水を有効活用できるよう、地下水の質（安全性）と量を確認するため、既存井戸300箇所の調査を実施しました。

【水質】

- ・300箇所の井戸を調査し、採水できなかった井戸5箇所を除いて、放射性物質は全てND（不検出：検出限界値（1 Bq/kg未満））でした。
- ・水素イオン濃度、マンガン、鉄、フッ素等で水質基準値を超えた井戸が35箇所（※）ありました。

※井戸から取水したままの原水を調査しており、水素イオン濃度等が水質基準を超過したものであっても、水道等の飲料水となる原水については適切に浄水処理され水質基準に適合した状態で供給されています。

【資源量】

- ・概ね十分な水量が確保されています。なお、一部の井戸で時期によっては水量の増減がみられました。

環境省が水辺のレクリエーション活動における被ばく線量を試算しました

子どもが夏休みの間、頻繁（20日間×5時間/日）に河川・湖沼で活動すると想定して被ばく線量を試算した結果、河川で0.031mSv 湖沼で0.030mSvとなったとのことです。

この値は保守的なケースで試算されたもので、平均的な値では河川で0.013mSv 湖沼で0.0086mSvとなっています。水環境活動の参考にされてはいかがでしょうか。

出典 環境省除染情報サイト <http://josen.env.go.jp/material/session/013.html>

<http://josen.env.go.jp/material/session/>

水辺のレクリエーション活動における被ばく線量の試算について(概要①)

資料5

平成27年1月 環境省除染チーム

- ・福島第一原子力発電所の事故以来、淡水産物が出荷制限されたり、河川・湖沼を利用した水辺でのレクリエーション活動が自粛され、水辺に親しむ機会が減少しているとの指摘がある。
- ・こうした背景から、関係者のリスク認識の参考となるよう、河川・湖沼における汚染状況のデータを整理し、その環境中において、水辺のレクリエーション活動を行った際に受ける被ばく線量について試算を行った。
- ・これらの情報を踏まえ、河川・湖沼における放射線の状況等に関する理解の醸成を図ることが重要。

河川・湖沼の底質の放射性セシウム濃度及び周辺環境の空間線量率
(福島県(避難指示区域を除く))

	底質の放射性セシウム濃度(Bq/kg)		周辺環境の空間線量率(μSv/h)	
	中央値	90パーセンタイル値	中央値	90パーセンタイル値
河川	115	1,095	0.22	0.60
湖沼	482	4,202	0.12	0.41

平成25年度公共用水域放射性物質モニタリング調査結果(平成26年3月末時点に補正)

水辺のレクリエーション活動における被ばく線量の試算について(概要②)

- ・子どもが夏休みの間、頻繁に河川・湖沼で活動すると想定し試算(下図参照)。
- ・底質の放射性セシウム濃度や空間線量率について保守的に設定したケースにおいても、水辺のレクリエーション活動における被ばく線量は、河川において0.031mSv、湖沼において0.030mSvとなった。

水辺のレクリエーション活動における被ばく線量の試算結果(20日間×5時間活動)

	河川		湖沼	
	平均的なケース	保守的なケース	平均的なケース	保守的なケース
底質の放射性セシウム濃度(Bq/kg)	200	2,000	500	5,000
周辺環境の空間線量率(μSv/h)	0.3	0.6	0.2	0.5
被ばく線量(試算)(mSv)	0.013	0.031	0.0086	0.030

※底質の放射性セシウム濃度及び周辺環境の空間線量率について、福島県(避難指示区域を除く。)の中央値、90パーセンタイル値を踏まえ、平均的なケース及び保守的なケースを設定。

*各パラメーターの設定根拠及び被ばく線量の試算方法については、参考資料3を参照



【問合せ先】

福島県企画調整部 土地・水調整課
メール: tochi_mizu@pref.fukushima.lg.jp
HP 福島県 土地・水調整課

〒960-8670 福島市杉妻町2-16
電話: 024-521-7123 FAX: 024-521-7911

検索

